



「かみなり」が鳴ると、どうしておへそをかくすの

「かみなりがへそをとる」という言い伝えがあるから

昔から、腹を出した子どもをいましめるために、「かみなりがへそをとる」という言い伝えが、世間に広く伝えられていたため、「かみなり」が鳴ると、おへそをかくすようになったのです。

科学的な裏付けは、まったくありませんが、おなかを出したままでいると、おなかが冷えて痛くなったりしますので、そのようなことのないよう、大人が子どもにそう言っていたのでしょう。

昔の人の書いたずい筆にも、このことは書かれています

これについては、一条兼良という人が、1469年に書いた『筆のすさび』というずい筆に、次のように書かれています。

「雷の臍をとるといひて小兒などを警(いまし)むるは、雷震の時は俯伏(うつぶし)する者は死せず、仰仆(あふむけ)する者は必ず死するによってなり。失火の烟たちこめて息をつぎがたき時は、土を舐めれというも同じ教なり」(監修・青木 国夫)

